

女性コーラーキューアーのためのパソコン教室

2008.11.9

東京スクエアダンスクラブ 八百幸 絃

●スクエアダンスコーラー（キューアー）がパソコンを使用する目的は

1. コール（キューイング）の時、パソコンから音を出す。
レコード・MDの代わりに、「SD Music Player」「Sq View」「Win Amp」等ソフトを使用し音を出す。
2. コール（キューイング）の時、コール（キュー）シートを表示させる。
キューシートや紙に書いたコールの代わりに使う。
3. コーラーの場合、パターコールを作る、あるいは、駒等を使用し自分で作った動作を確認するのにSD用シュミレーターを使用する。そしてパソコンに表示させ、それを読んだり、あるいは紙にプリントとして使用する。

●上記用途を満たすには、下記ソフト等をインストールし使用する。

1. 音を出すには、
 - ◎レコード・CD等の音源をデジタル化して、パソコンに保存する。
音源のデジタル化（パソコンに音楽を取り込む方法）を参照
 - ◎パソコンで音を出すには「SD Music Player」「Sq View」「Win Amp」等ソフトを使用し音を出す
「SD Music Player」では、ハッシュ用音楽とシンギング用音楽を表示させることができ順番に音が出せる。また、ハッシュ用音楽の場合は、リピート機能も持っており、切れ目なく音楽をならすことができる。シンギングの場合には、キューシートも出すことができる。タイマー機能も持っており、今何分コールをしたか表示も可能。
また、スピードを変えたりキーも変えたり出来る。
2. コール（キュー）シートを表示
 - ◎インターネットで入手したシンギング・ラウンドキューシートを表示させる。あるいは、ワード等で作ったシートを表示させる。
3. パターコールを作る、そしてそれを表示させ紙の代わりに使用。
 - ◎SD-TTY、SD-COUPLE等ソフトを使用しパターコールを作る。
このソフトは、MSからC4までレベル別に使用、途中でゲットアウトも探することができる。
 - ◎上記で作ったコールを表示させるには、SD Readerソフトで表示させる。SD ReaderはSD Music Playerとも連携しており、キーボードで音楽を止めたり、再スタートさせたりもでき、またタイマー表示もできる。

音源のデジタル化（パソコンに音楽を取り込む方法）

2008.11

東京コーラーズ 八百幸 紘

最近、スクエアダンス界で、コーラーが使う音源がレコードから→MD あるいは CD になり、さらにパソコンを使用するという傾向が一段と進んでいます。

これはパソコンで踊りのシークエンスを作ったり、作ったシークエンスをパソコン上に表示させ、同時に音楽もならして、コールが出来る便利さがあるからです。

ただ、音源を MP-3 形式（デジタル化されている）で購入している場合は、すぐそのまま、使えるのですが、CD あるいはレコードで購入している場合は、パソコンでできるようにデジタル化しないといけません。今回はデジタル化の方法を記してみたいと思います。

●CD からパソコンへ音楽を取り込む方法

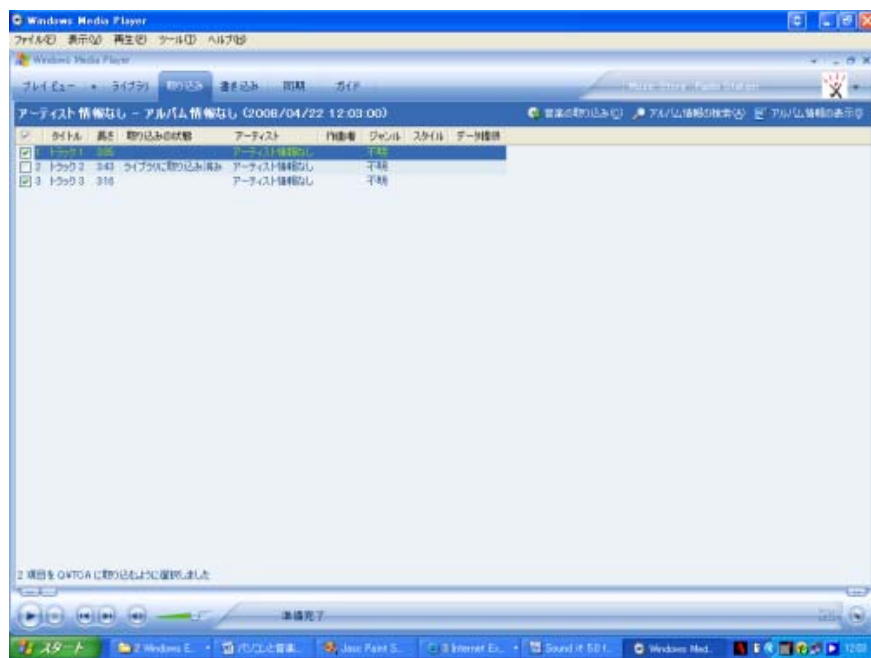
◆EASY-CD Creator（『イージーメディアライティング』）等ソフトを使用。

使い方は説明書を

◆Windows Media Player を使う

取り込み方法

スタート→すべてのプログラム→Windows Media Player を起動する



ツール→オプション→音楽の取り込み→取り込みの設定で形式を「mp3」に設定する。又、取り込む場所（フォルダー）も変更しておく。ツールが表示されない時は Windows Media Player の右上の

の をクリックすると画面が大きくなり、ツールバーが表示される。

もし取り込む場所を指定しない場合は、スタートを右クリック→エクスプローラ(X)を左クリックでエクスプローラを起動、Windows XP(C)→マイ ドキュメント→マイ ミュージック の中に取り込まれる。（場合によっては CD の名前のフォルダーが作られその中に曲がある場合も）

次に CD をパソコンの CD ポートに挿入。しばらくしてから、Windows Media Player の取り込みをクリック。CD の内容が表示されるので、取り込みたい音楽の頭にチェックを入れる。（必要のない音楽のチェックははずす。）

音楽の取り込み(C)をクリックすると、音楽の取り込みを開始し、パソコンへの取り込みを終了する。
 もっと簡便な方法として、CD をパソコンの CD ポートに挿入すると、下記画面が出てくるので、「CD から音楽
 を取込みます」をクリックすると自動的に、マイ ミュージックに取り込まれる。



●レコードの音源をパソコンに

用意するもの

①レコードプレーヤー

- ◆ベスタクス handy trax ポータブルターンテーブル(¥14800/ヨドバシカメラ) 図-2

おすすめ度：1

- ◆ソニー PS-LX300USB [USB 端子搭載 ステレオレコードプレーヤー](¥25800/ヨドバシカメラ) 図-1

このプレーヤーはパソコンと接続すると直接デジタル録音ができる機器。

おすすめ度：2

図-1



図-2



図-3



- ◆ポータブルレコードプレーヤー GP-3R (製造中止) 図-3

*すでにお持ちの方も多数おられると思われる。

- ◆その他多数あり (最近は USB メモリーに直接デジタル化された音楽を保存できるモノもでている。

②USB オーディオキャプチャー

- ◆ローランド EDROL USB オーディオキャプチャー UA-1EX (¥9800/サウンドハウス) 図-4

おすすめ度：2



図-4



図-5

- ◆ローランド EDIROL USB オーディオキャプチャー UA-4FX (¥17000/サウンドハウス) 図-5

おすすめ度：1

- ◆アーベル HAMU02BK [USB オーディオ変換ケーブル ボリューム付] 図-6 (¥1980/ビッグカメラ)

- ◆アーベル HAMU02 [USB オーディオ変換ケーブル] 図-7 (¥1980/ビッグカメラ) おすすめ度：2

類似商品は多メーカーから販売されているので選択するとよい。但しこれらは録音時、音が聞けない
また、この変換ケーブルは、スクエアダンス用アンプにパソコンの音楽をならすためにも使用出来る。



図-6



図-7



図-8

③デジタルサウンド編集ソフト

- ◆Sound it! 5.0 for Windows (¥7080/ビッグカメラ) 図-8

*Sound it! 3.0 はローランド製品を購入すると同梱されている。

- ◆SoundEngine Free (無料で誰でもインターネットで入手出来る)

Download URL: <http://www.forest.impress.co.jp/lib/pic/music/soundedit/soundengine.html>

検索エンジンで「SoundEngine」検索しても多数出てくるのでどこでもよい。

- ◆ソニー PS-LX300USB [USB 端子搭載 ステレオレコードプレーヤーを購入すると

録音・編集ソフト「Sound Forge Audio Studio LE」が付属されている (使い方は説明書を)

④接続コード

- レコードプレーヤーから USB オーディオキャプチャーに接続するコード

- ◎ベストクス handy trax ポータブルターンテーブルとローランド Edirol USB オーディオキャプチャーと接続の場合、両端がステレオピンジャックのコードで接続。図-9

図-9

図-10

図-11

図-12



- ◎ポータブルレコードプレーヤー GP-3R とローランド Edirol USB オーディオキャプチャーとの接続はモノミニジャック (レコードプレーヤーイヤホンにさす) とステレオピンジャックのコード。図-10 のステレオミニジャック側を、モノラルに変換する必要がある。

ステレオミニジャック→モノラルミニジャックに変換プラグが必要。図-11

- ◎ベストクス handy trax ポータブルターンテーブルとアーベル HAMU02 の接続は、ステレオピンジャック (プレーヤー側) とステレオミニジャック (アルベルのマイク入力 (ピンク穴) と接続。図-10

- ◎ポータブルレコードプレーヤー GP-3R とアーベル HAMU02 の接続は、モノミニジャック (レコードプレーヤーイヤホンにさす) とステレオミニジャック (アルベルのマイク入力 (ピンク穴) と接続。図-12 と 図-11 を使用。

- USB オーディオキャプチャーとパソコンの接続するコード

- ◎ローランド EDIROL USB オーディオキャプチャーとパソコンは USB ポートに USB ケーブルで接続 (付属品)

- ◎アーベル HAMU02 は直接 USB ポートに接続。

音楽の取り込む方法

手順-1：録音・編集ソフトをパソコンにインストール。

手順-2：レコードプレーヤーと USB オーディオキャプチャーとパソコンをケーブルでつなぐ。

◆Sound it!を使う方法。

Sound it!を起動させる。(スタート→すべてのプログラム→Sound it!→Sound it をクリック)



まず、ツールバーの設定(S)で、オーディオポートの設定(U)の設定を行う。

入力デバイスを接続しているオーディオキャプチャーによって変える。

(自動的に設定されるケースもある)

また、Sound It!のバージョンが 3.0 の場合はツールバーの設定の一番下にある設定の入力をクリックし、入力レベルインディケーターを表示させる。

これで、準備 OK！

まずツールバーのファイル(F)→新規作成をクリック (何か画面に出てきたら OK を！)

レコードをまずかけてみて入力音量の調整をする。



この部分↑がレコードをかけると左右に動く (ピークホールドをクリックすると最大音量の位置が示されるので、100%にならないように音量を調整。

Sound It!3.0 の場合は入力レベルインディケーターを見て調整。

音量の調整：1. まずレコードプレーヤーの出力音量を調整。

2. ローランドの場合は音量調整ダイヤルがついているので入力音量を調整する。

上記準備が出来たら、録音開始する。



ピンクの丸部分をクリックすると録音開始する。(数字が変わっていく)

それから、レコードをかける。

録音が終了したら、四角のボタンをクリックで録音状態が止まると同時に波形が表示される。

注：録音時、ローランド・EDIROL の場合は、イヤホン端子があるため、イヤホンで音楽を聴く

ことが出来るが、アーベル HAMU02BK [USB オーディオ変換ケーブル]は、聴くことが出来ない。
次に、録音の頭の部分（余分な部分）のカットを行う。

ツールバーのレンズマークをクリックし波形の上をクリックすると録音の波形が拡大される。



をクリックし波形の先頭部を表示させる。

ツールバーの矢印マーク（レンズマークの隣）をクリックし、マウスを右クリックしながら削除する部分を黒くさせる。

ツールバーの編集(E)→切り取りカット(C)をクリックすると余分な部分のカットが出来る。

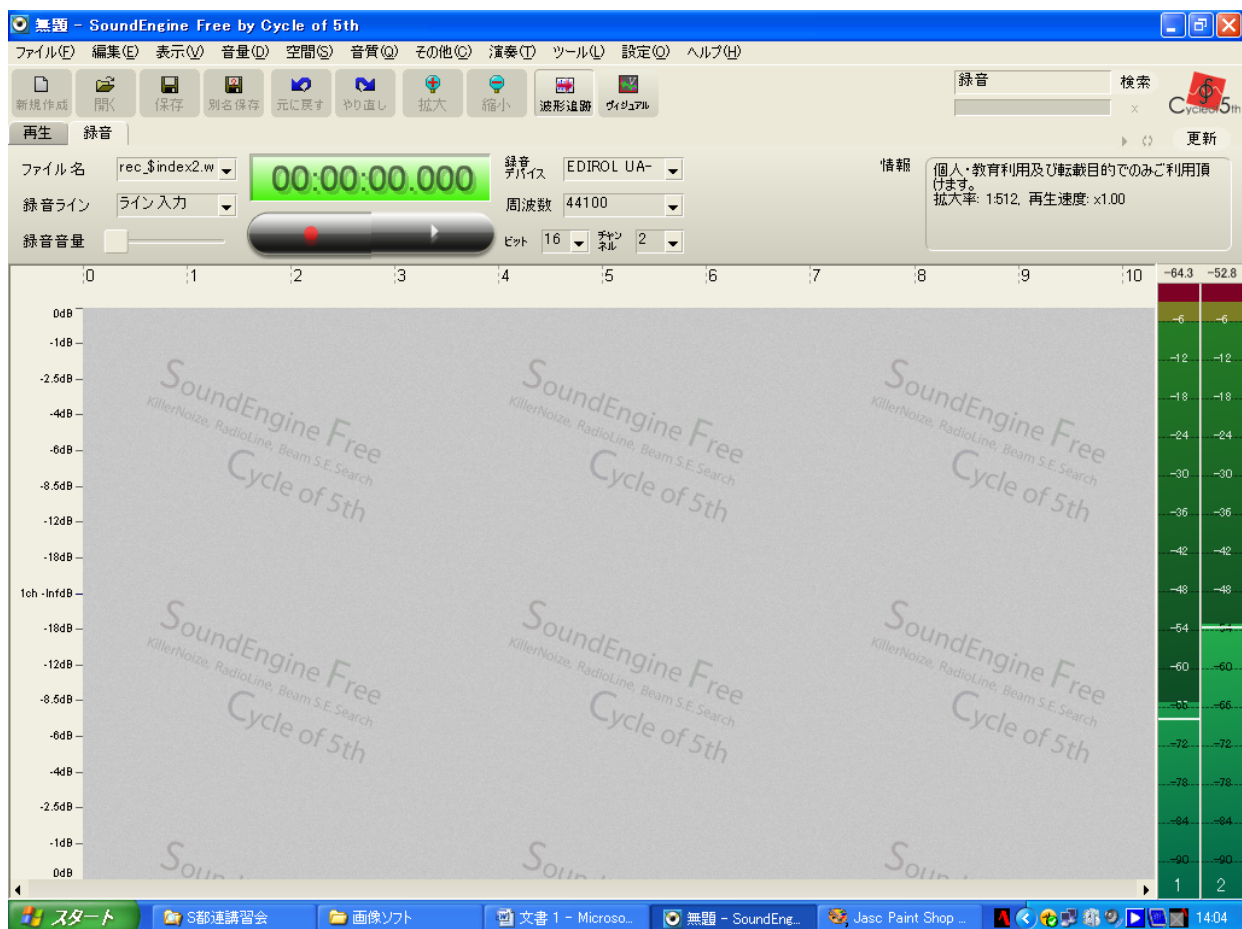
後ろの部分をカットする場合も同じ方法で行う。

波形がもし上下で 100%に達していない場合（録音レベルが低い場合）

ツールバーの編集(E)→全てを選択(A)をクリックすると録音の全てが黒くなる。

ツールバーの加工(R)→ノーマライズ(N)→で、0%-100%になっていることを確認後実行をクリックすると波形の最大ピークが 100%になる。またこの状態で録音時レコード特有のピチピチというスクラッチノイズがひどいようなら、ツールバーの加工(R)→スクラッチノイズの除去(S)でバーを動かしながら試聴し問題ないなら実行をクリックするとノイズが軽減される。これら操作を終えたら、ツールバーのファイル→名前を付けて保存(A)をクリック、保存場所と名前とファイルの種類(wav か MP-3 を選択)を付けて保存を実行する。これでデジタル化は終了。

◆SoundEngine を使う方法（新バージョンの場合）



の再生・録音の部分（起動時は再生）の録音をクリックすると上記の画面が出てくる。
（詳細画面）



録音ラインと録音デバイスを設定する。（一般的には録音できる状況にしてからこのソフトを起動すると自動的に設定されるが、設定されないときに入力設定する（横にある下向き三角形矢印をクリックするとデバイスが出てくるので選択する）

設定が終わってレコードをかけると右端のレベルが上下に動くので、ピークが 100%にならないようにプレーヤーの音量を調整。

録音開始は赤丸ボタンの横の白矢印をクリック、レコードプレーヤーをかける。レコードが終了したら、赤丸ボタンをクリック。

クリックすると最初の再生画面に戻り、波形も表示される。

波形のレベルが低い場合、とかスクラッチノイズがある場合は、編集(E) →全てを選択し、音量(D) ノーマライズとかノイズゲートで処理をする。後は名前を付けて保存をする。（別名保存をクリックすると保存画面が出てくる）

但し、保存形式は、wav 形式でしか保存が出来ないので、後で午後のコーダにて MP-3 形式に変換する。

*MP3（エムピースリー、Moving Picture Experts Group Audio Layer-3）は、デジタル音声のための圧縮音声ファイルフォーマットのひとつ。

デジタル化の時の注意：レコードのスピードに要注意。

レコード会社によって早かったり遅かったりするので、おおざっぱには 15 秒で 32 カウントになるようスピード調整を行う。

パソコンで実際に音源をならす方法

これは後日、方法をのべるとして、とりあえず、S 協のホームページの「耳より情報」掲載されているのでここにご紹介します。

<http://www.remus.dti.ne.jp/~jsda/mimi/050829/>

SD Reader, SD Music Player の導入&取扱説明書

の中の SD Music Player をご参照ください。ソフトのダウンロード先、ダウンロードの方法、セットの方法、使い方等でております。

以上

●日本スクエアダンス協会

<http://www.remus.dti.ne.jp/~jsda/index-j.html>

[耳より情報コーナー](#)が特に参考になります。

●SD Music Player

<http://homepage3.nifty.com/MandA/sdmp/>

パソコンで音楽を出すときのソフト「SD Music Player」の作成者竹内淳氏の頁

●SD Reader

http://members.at.infoseek.co.jp/osam_kawamura/SDReader/index.html

SDTTY とか SD Couple で作った SD シークエンスを読むソフト「SD Reader」の作成者河村修氏の頁

●SDTTY

<http://www.kikuchi-san.com/>

SD シークエンス（コール）をパソコンで作るシュミレーターソフト「SDTTY」や「SD32」がダウンロードできる菊池紀芳さんの頁

●Sound Engine

<http://www.cycleof5th.com/>

レコードから音を取り込んだり、取り込んだ波形データを加工したりするのに便利なソフトです。

●午後のコーダ

<http://www.marinecat.net/>

MP3 形式に変換する MP3 エンコーダと呼ばれるソフトです。

●S Rec

<http://www.rukihena.com/soft/srec.html>

アナログソース取り込むときに無音部分を検知して、自動的にファイル分割してくれます。さらに、音量の最適化も可能です。上記の午後のこ〜だがインストールされていれば自動的に MP3 ファイルに変換できます。

パーティや例会の録音に最適です。

●聞々ハヤえもん

<http://www.edolfzoku.com/>

音源のキーを下げたりスピードを変えたりでき、保存も可能。

●浜松スクエアダンス愛好会ホームページ

<http://homepage3.nifty.com/bow/>

イベントの頁が大いに参考になります。全国のパーティー情報がわかります。

●DoSaDo.com（アメリカ）

<http://www.dosado.com/>

スクエアダンスのことならすべてがわかります。

Call List & Difinitions は時々チェックするようにしましょう。

また、レコードも購入することができます。

●SD-Couple

<http://www.lynette.org/sd/index.html>

SD シークエンス（コール）をパソコンで作るシュミレーターソフト（The SD Square Dancing Simulator）「SD Couple」がダウンロードできる Bill Ackerman & Stephen Gildea の頁

●SQ-View

<http://hem.passagen.se/thomasb/>

パソコンで音楽を出すときのソフト「SQ-View」の作成者 Mr.Thomas Bernhed の頁
キューシートが豊富。

●Vic & Debbie Ceder's Square Dance Resource Net

<http://www.ceder.net/>

アメリカのコーラー Mr.Vic Ceder's の頁で、レコードデータベースが充実しておりキューシートを出すことができる。